

■釧路公立大が逃げ切る。春季オープン戦

北海道学生アメリカンフットボール連盟主催の春季オープン戦は第2日の6月8日、帯広市の帯広畜産大グラウンドで釧路公立大（昨秋の道学生選手権2位）と帯広畜産大（同6位）の試合を行い、前半に大量点を奪った釧路公立大が、最終Qの帯広畜産大の反撃を抑え、36－20で逃げ切った。第3日は14日、札幌市円山競技場で「すずらんボウル」の冠試合として北海道科学大－北星学園大・札幌学院大合同チーム（午前10時）、北海学園大－北海道大（午後1時）の2試合を行う。入場無料。



釧路公立大－帯広畜産大戦は攻撃力に勝る釧路公立大が先手を取った。第1Q2分にRB佐々木葵空（4年）の2ヤードランで先制すると、同7分にはKも兼務するOL／DL北舘来星（4年）の38ヤードFG、LB畠山恵太（3年）のインターセプトで得た同11分の攻撃ではQB中西亮太（4年）からWR栗田哲平（2年）への72ヤードTDパスで16－0とした。第2Q4分にはQB石川諒（2年）からWR菊地悠斗（3年）への15ヤードパスも決まり、前半を23－0で折り返した。釧路公立大は第3Qも、QB石川からWRに入ったQB中西への15ヤード弾で29－0とリードを広げた。

帯広畜産大の反撃は第4Q。自陣30ヤードからの攻撃シリーズで、QB安澤十野（3年）のキープとRB鳶坂建之介（1年）のオープンで運び、最後は同2分にQB安澤が2ヤードをねじ込んだ。トライのキックも決まり7－29。直後に釧路公立大のQB石川に3本目のTDパスを許すが、同8分にはDB岡田優人（3年）が35ヤードのインターセプトリターンTDを決めて14－36と追いつけた。さらに残り1分55秒でLB卯野優翔（4年）がインターセプトを決めて敵陣44ヤードで攻撃権を得ると、自慢のランで前

進し、残り7秒でQB安澤が4ヤードキープでTD。20―36まで迫ったが時間切れとなった。



今季から指揮を執る釧路公立大の高岡凜コーチは「得点力があることを選手が自覚できたのが収穫だが、けが人が多いのは課題。釧路に戻ってけがしない体力作りに取り組む」と反省点を挙げた。TDパスとTDレシーブ、3インターセプトと攻守でチームを引っ張った主将のQB中西は「勝てたのは収穫だが、2番手選手が出た時に層の薄さがある」と勝利に浮かれなかった。第4Qの54ヤードキャッチを含む2TDのWR菊地は「去年の高坂さんに負けないように練習してきた」と胸を張った。

帯広畜産大の鏡順之助監督は「最後に攻撃チームが粘り、TDを奪ったのが収穫」と選手の頑張りをたたえながら「1、2年生をどれだけ底上げできるか」とチーム作りの課題も挙げた。本職のRBから急きょQBに起用されて2TDランの安澤は「QBは初めてだが、意地のTDだった。1年生の好ブロックに助けられた」と総力を強調した。インターセプトリターンTDのDB岡田も「相手のプレーアクションパスを読んでいた。リターンはパイロン目がけて走り込んだ」と振り返った。

(広報委員 塚田博)